

SDGsを考えよう!!

問い合わせ…企画経営課企画経営係(TEL 25-2230)

SDGsとは

Sustainable Development Goals(サステナブル・デベロップメント・ゴールズ)の略称で、2015年9月に国連で全会一致で採択された国際目標です。2030年までに持続可能な社会の実現に向けた世界を目指すことを国際社会共通の目標としています。17のゴール、169のターゲットで構成され「誰一人として残さない」ことを宣言しています。

私たちにできること(各目標の一例です)



- ・子ども食堂に食材支援や寄付をする
- ・赤十字社への支援をする



- ・いじめや差別をしない、させない
- ・ハンデのある方を見かけたら、援助する



- ・食べ残しをなくす
- ・栄養バランスを考えた食事をする



- ・家具の転倒防止や防災グッズを用意する
- ・まちの清掃・防災活動などに参加する



- ・徒歩や自転車で通勤・通学する
- ・健康イベント(サイクリング等)に参加する



- ・マイバッグ、マイボトルを持参する
- ・拠点回収を利用する(リサイクル)



- ・地域課題解決型の学習講座を受講する
- ・環境や福祉イベントなどに家族で参加する



- ・電気をこまめに消す、使用時間を減らす
- ・CO²排出の少ない交通手段を使う



- ・家事を平等に分担する
- ・役員決めの際、男女バランスを考えて選ぶ



- ・レジ袋やプラスチック製品を使わない
- ・海や川に行ったらごみは持ち帰る



- ・水道の蛇口をこまめに止める
- ・風呂水を散水や洗濯に再利用する



- ・毛皮や牙などを使った製品を買わない
- ・飼えなくなったペットを捨てない



- ・太陽光発電や非ガソリン車を導入する
- ・LED電球に切り替える



- ・国際紛争や平和に関する記事を読む
- ・被爆地や被災地を訪問する



- ・残業をしない、休暇をきちんと取る
- ・商店街を利用し地産地消の商品を購入する



- ・SDGsに関する情報をSNSで拡散する
- ・SDGsに関する市の取り組みに参加する



- ・SDGsに取り組む企業を応援する
- ・インフラ設備に興味をもつ

誰一人取り残さない未来へ!!未来を変える17のゴール





SDGs未来都市 のおがた

中長期を見通した持続可能なまちづくりに向けて、SDGsの達成に向けた優れた取り組みの提案を内閣府が公募・選定する「SDGs未来都市」に直方市が選定されました。

令和4年5月20日に内閣府において、野田聖子地方創生担当大臣より選定証が授与されました。

※福岡県内で5例目

(県内選定自治体:北九州市、大牟田市、福津市、宗像市)



SDGsの主な取り組み



直方市



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ゴール	取り組み	内容
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	直方IoT推進ラボを活用した調査研究	・ 経済産業省より認定を受けた直方IoT推進ラボを活用した樋門の遠隔監視などの実証研究
11 住み続けられるまちづくりを	行政手続きのオンライン化	・ 市DX戦略として111の手続きをオンライン申請やスマホ決済サービスを整備(R4.5月末時点)
3 すべての人に健康と福祉を	公民連携による健康施策の実施	・ 企業と連携し、熱中症対策アドバイザー講座やウォーキングイベントなどを開催
4 質の高い教育をみんなに	プログラミング教室の実施	・ 地元企業、九州大学と連携し、中高生向けのプログラミング教室を開催
12 つるも資源を 13 気候変動に 具体的な対策を	カーボンニュートラルに向けた取り組み 令和4年2月に「ゼロカーボンシティを宣言」 令和4年4月脱炭素先行地域に選定 (本市を含む北九州都市圏域)	・ 市内高校生を対象に環境サミットを開催 ・ 企業と連携し市庁舎や全小学校等にマイボトル専用サーバーを設置 ・ 地元企業と連携し無人資源回収システムの実証実験開始

市長メッセージ

直方市では、「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念のもと、次の子どもたちの世代へ、しっかりとバトンを渡すため、地域課題解決に向けた仕組みを作り、持続可能な取り組みを進めていきます。

また、令和3年度に策定した「直方市第6次総合計画」において「未来へつなぐ～ひと・まち・自然～」を都市将来像とし、SDGs17のゴールと関連付けた施策を着実に実行していきます。

直方市長 大塚 進 弘



第6次総合計画 ▲